Ｐｏｉｎｔ

ＪＲ東海労大阪修繕車両所分会分会情報
Ｎｏ．１９２　２０１４．０２．２３．
発行責任者　乾　眞規
編集責任者　教　宣　部

個人への責任追及では事故や

ヒューマンエラーは無くならない！

２月に入ってから、事故やヒューマンエラーが連続して発生しました。

会社は、『今回の事象は、まさに「守ることを守らず」にして発生した典型的な事象である。』と個人へ責任を転嫁し、作業前の打合せの徹底、チェックシート・確認チェック簿の使用の徹底、指差確認喚呼の徹底などを行うよう更なる社員への締め付けを強化して乗りきろうとしています。私たち東海労は、事故やヒューマンエラー・労働災害は、個人への責任追及・責任転嫁による対策ならざる対策だけではなく、その事象の背後要因など本当の意味での原因追究をしなければ事故は無くならないと考えます。

資格を取得したからできるという会社の考え方に疑問！

今回の事故やヒューマンエラーの原因の一つとして、会社の操縦担当者や操車担当者の資格取得の養成のやり方に問題があるのではないかと考えています。ＪＲ発足当時、会社は、操縦担当者や操車担当者の資格取得については、交番検査、台車検査、仕業検査、修繕作業等各職場での経験と実績を積み重ねてきた社員を車両技術係の上位職に登用し、車両技術係という業務を通じて責任と自覚を養った社員に資格を取得させていました。

しかし、近年、会社は、資格者不足や技術継承を急ぐあまり、毎年多くの若手社員に無理矢理に資格を取らせています。そして、資格を取得したからには一人前だとして業務につかせているのです。これでは、経験の浅い社員が重要な作業を行わなければならなくなり、事故やヒューマンエラーが起きて当たり前だと思います。操縦や操車の資格は、クレーンや玉掛け、フォークリフトなどの資格とは全然違うのです。

私たちは、事故やヒューマンエラーを無くすためには、まず、会社の操縦担当者や操車担当者の養成のやり方を見直すべきだと考えます。

事故の芽を摘むには、今の会社の操縦担当者や操車担当者の

養成のやり方を抜本的に見直すしかない！